

赤木：いまの職場が漢籍を扱っているところなので、その専門知識を身につけていきたいと思っています。

中塚：文献収集講座というのを工学部等の図書室でやるんですよ。今日も立て看板作りまし
たし、テキストやホームページも作ります。図書職員でデータベースの使い方とかを説明するので、利用者教育関連のスキルを磨いてゆきたいですね。

筑木：いろいろなところをまわりたいですけど、いまやっと目録や受入のような管理部門の仕事を覚えはじめたところなんで、しばらくはその勉強を続けていきたいと思っています。

楠見：最終的には洋書目録も覚えたいといけ

ないんで、いまのうちにもうちょっと語学をがんばらないと、と思います。

高城：語学とコンピュータ関係の勉強は必須ですが、いろんなところを異動して全体を把握したいです。京大の図書館は将来どうなっていくのか、常に関心を持って自分なりに考えていたいで。

赤木俊介 / 人文科学研究所図書掛

楠見牧子 / 経済学部整理掛

高城雅恵 / 文学部整理掛

筑木一郎 / 法学部整理掛

中塚弘人 / 工学部図書掛情報学研究科

(司会進行：江上敏哲 / 附属図書館電子情報掛)

附属図書館について思うこと

文学部研修員 柴田芳成

私の附属図書館の利用の仕方として、学部生の頃は机で本を広げることもありましたが、最近、書庫内で図書や雑誌を探す、あるいは文献複写の依頼をするという用件が大半です。その程度の利用でしかありませんが、以下に、感想を書きつけます。

・大学図書館の蔵書——試みに、OPACで「ハリー・ポッター」を検索したところ、既刊の4作品ともヒットし、いずれも「貸出中」(調査1件あり)で、予約が入っているものもありました。また、こちらは附属ではなく総合人間学部図書館ですが、村上春樹『海辺のカフカ』に予約が11件入っているという検索結果が出ました(平成14年12月17日)。各作品とも1冊だけの所蔵のようなので、近頃しばしば報じられる「図書館の大量購入と著作権」といった問題はなさそうですが、それ以前に大学図書館の蔵書としていかなるものかと思っています。書店や一般図書館で容易に手にすることができる図書をいくつも購入するより、少しずつでも専門書を揃える方が大学図書館にふさわしいのではないで

しょうか。私には人文系の本のことしかわかりませんが、最近の研究書については、他大学と比較して、京大は必ずしも充実しているとはいえないように思います。また、京大の蔵書として、例えば、宮部みゆきや京極夏彦はどうだかなと思います(どちらも総人に所蔵あり)が、太宰治や三島由紀夫ならば抵抗ありません。採否にあたってどこで線引きをするかは難しい問題だと思いますし、利用者からの購入希望があれば、それに答える役割というものもあるかとは思っています。採否に関わっておられる司書の方々の見識に期待します。

・片田文庫——二階の開架にきれいに並んでいますが、どのくらい利用されているのでしょうか。私の場合、以前の方が使い勝手のよいものでしたが、片田文庫と以前の開架図書との利用頻度の比較などはされているのでしょうか。とはいえ、以前のことを知らない学部生にとっては、片田文庫がずらっとあることの方が普通なのですね。

・図書館内の飲食——これは専ら利用者の側の問題になりますが、ドリンクコーナーの設けられた今でも、机の上にペットボトルを置いているのを見かけます。公の場所なので、そのくらいの約束事は守りなさい。

(しばた よしなり)